

豊穡な大地に立つ

戸知山
625m



一期生17名
東男！小町娘！
いい顔が揃った

3月19日

🌈 春がきた！を実感。志を胸に大きな春のようにのびやかな気持ちでスタートした。高山右近の生誕地の舞台に立ち、鍬入れ式だ。"こんにちは"と心いっぱい詰まった挨拶を交わす(人生60年成熟期)。う～ん、気持ちいいね、心なしかAIRまで新鮮だ。

われら農夫(婦)もどき一団は、意気軒昂。棚田の原風景を取り戻すぞ～とモチベーションが上がる。開拓は開墾はわが人生のスパイスだ「共に汗をかき、共に笑い、共に鍬を入れる」仲間の顔は最高である。



🌈 うららうららと陽光が溢れ始めた。タムシバが咲くのどかな里山。何を植えようか！何をしようか！考える時が…また楽しい。先人は棚田を生活の糧として、丁寧に生



き、ゆっくりと生き、柔らかく生きてきた。平成の今、一部の棚田は泣いている(約1100坪)。この姿は全国各地に見られ耕作放棄は大きな社会問題となっている。住民のボランティアの「体力と知恵と工夫と」和の結集で、次の世代へと繋ぐことが大切である。この遊休地は先人の暮らしを教えてくれる大切な財産でもある。

フォトコンテスト作品より

棚田の風景

